

自治体産業政策

高橋かずちか

【2. 中小企業が経験と勘に頼った経営を行わざるを得ない社会的要因】

中小企業に期待される役割としては、

- ①魅力ある雇用機会の提供 ②地域経済発展への貢献
 - ③地域文化の継承 ④伝統技術の伝承 ⑤地域消費生活の充実 ⑥技術革新の担い手
 - ⑦市場競争の苗床 ⑧国民経済への貢献（自由競争の進展による独占・寡占等を排除）
- 等があげられる。

しかし反面、中小企業が抱える問題として、

- ①生産性の低さ ②経営革新・技術革新能力の脆弱さ ③格差問題
- ④経営難・経営不安 ⑤借り入れ時の担保・個人保証や無制限なリスク負担
- ⑥劣悪な労働条件 ⑦人材確保・育成問題 ⑧事業継承時の課税問題
- ⑨高い税負担 ⑩資金調達の難しさ等々厳しい現実に直面している。

こうした中小企業が抱える問題点の中で、一番根本的な問題は、ヒトの問題である。構造改革・規制緩和、グローバル化と大きく変革していく社会経済情勢の中で、中小企業はその特質である柔軟性機動性を活かし、生き残りをかけるが、

しかし、そのための人材採用が難しく、その能力レベルも次世代に対応する経営を望む経営者としては満足のものではない（良い人材を呼ぶコストもないのが現状）。また教育したくても能力・意識の問題もあるが定着性も低く、人材の育成もままならない。

危機意識と現状認識を共有化し意識改革をしていく中で、また変革する社会情勢や技術に関する情報収集力が求められる中で、情報共有化が何よりも重要であるが、結局データと分析が出来ず、属人的手法でその場その場を乗り切っていくがざるを得ないのである。

以上